しごと部会

2024年2月20日 報告会

西村　弘文（特定非営利活動法人サポート歓）
上田　壮広（社会福祉法人とよおか福祉会）
衣川　勝海（NPO法人ぷろじぇくとPlus）
上﨑　良純（非営利活動法人コウノトリ豊岡・いのちのネットワーク）
南　克伸（兵庫県立出石特別支援学校）
佐藤　杏南（豊岡市社会福祉協議会）
琴川　なごみ（合同会社はるちゃん）
岡森　吉彦（豊岡市社会福祉課）
中嶋　亮　（豊岡市社会福祉課）

目的と課題意識

- **しごと部会の目的**

  就労に関する既存機関では対応できない、就労をしたいが支援が必要となる人、あるいは、障害受容がなく支援が届きにくい人へ「しごと」をつなげる仕組みづくりを検討する。

- **課題意識**

  ・コミュニケーションが苦手、就労経験の無さなどから就労に支援が必要だが、本人の自覚がないことから適切な支援につながっていないケースがある。

  ・授産作業の開拓を行い、作業メニューの拡大や工賃向上を図りたいが、既存の事業で手一杯となり開拓まで手が回らない就労系サービス事業所がある。

  ・ひきこもり、ニートや生活困窮、生活保護対象者の中には障害をもつ人、障害特性があるものの受容がない人がおり、就ポツなどの支援につながりにくい。ハローワークにおいても障害者支援部門につながりにくい結果、離職を繰り返しひきこもり期間が長くなる。

  ・一般就労のニーズはあるが、就労可能な人材が不足しており、育成する必要がある。

  →「しごと」をマッチングする仕組みがあれば…

  - ・工賃向上、授産作業メニューの拡大、就労経験の増加
  - ・就労に関する自信がつくことで、将来的に一般就労をめざすきっかけに
  - ・自身の特性（得手不得手）に気づくきっかけとなり、適切な支援機関につながる
  - ・地域の困りごと（除雪、除草、農作業、掃除、買い物等）の手助け
  - ・市内の労働人口増加、業務分担など企業側にもメリット

「しごと」とは…
ハローワーク等の求人にはない、地域の作業（個人、団体）や企業、行政からの請負業務などがメイン。
一般就労、障害者雇用ではない。

しごと部会が目指すもの

（仮称）しごとセンターの設立

業務内容

・企業や地域から発注を受けた「しごと」を、センターに登録する利用者・事業所にマッチングする

・在宅ワークや作業などの「しごと」開拓を行う

主なターゲット

「しごと」を請負：若者（サポステ登録者、生活困窮者、ひきこもり、ニート、生活保護受給者等）

「しごと」を発注：企業、官公庁、地域の自治会、就労系障害福祉サービス事業所、高齢者等

効果

① 就労機会の増加（工賃向上、幅広い作業の経験が可能、就労への自信醸成 等）

② 事業所の仕事開拓のサポート（幅広い分野の作業や、より工賃が高い作業、利用者の能力に合う作業の受注可能）

③ ハローワークの求人にはない超々短時間・短期間雇用、在宅ワーク、地域からのニーズ等も請負可能

④ 他の専門機関（ハローワーク、就ポツ等）との連携による就労支援の増強

⑤ ①による、就労可能な（就労を目指すことができる）人材の増加

⑥ 障害特性の自覚がない人の障害受容のきっかけ・促進を図り、適切な支援につなげる
（ひきこもり、生活困窮、生活保護から脱却促進や予防につながる）

⑦ ①～⑥により、市のコスト削減と同時に一般就労へとつなげることで納税者の増加

（仮称）しごとセンター　イメージ図

（仮称）しごとセンター

① 業務の発注

④ 料金支払い

契　約

発注者

企業、官公庁、
家庭など

登　録

契　約

② 業務遂行の依頼

⑤ 配分金支払い

③ 業務の遂行
請負、委任、職業紹介、施設外就労により実施

障害福祉サービス事業所、
地域活動支援センター

情報共有・連携

関係機関

ハローワーク、県福祉事務所、
市社会福祉課、障害者就業・生活
支援センター、相談支援事業所、
地域包括支援センター、障害福祉
サービス事業所　など

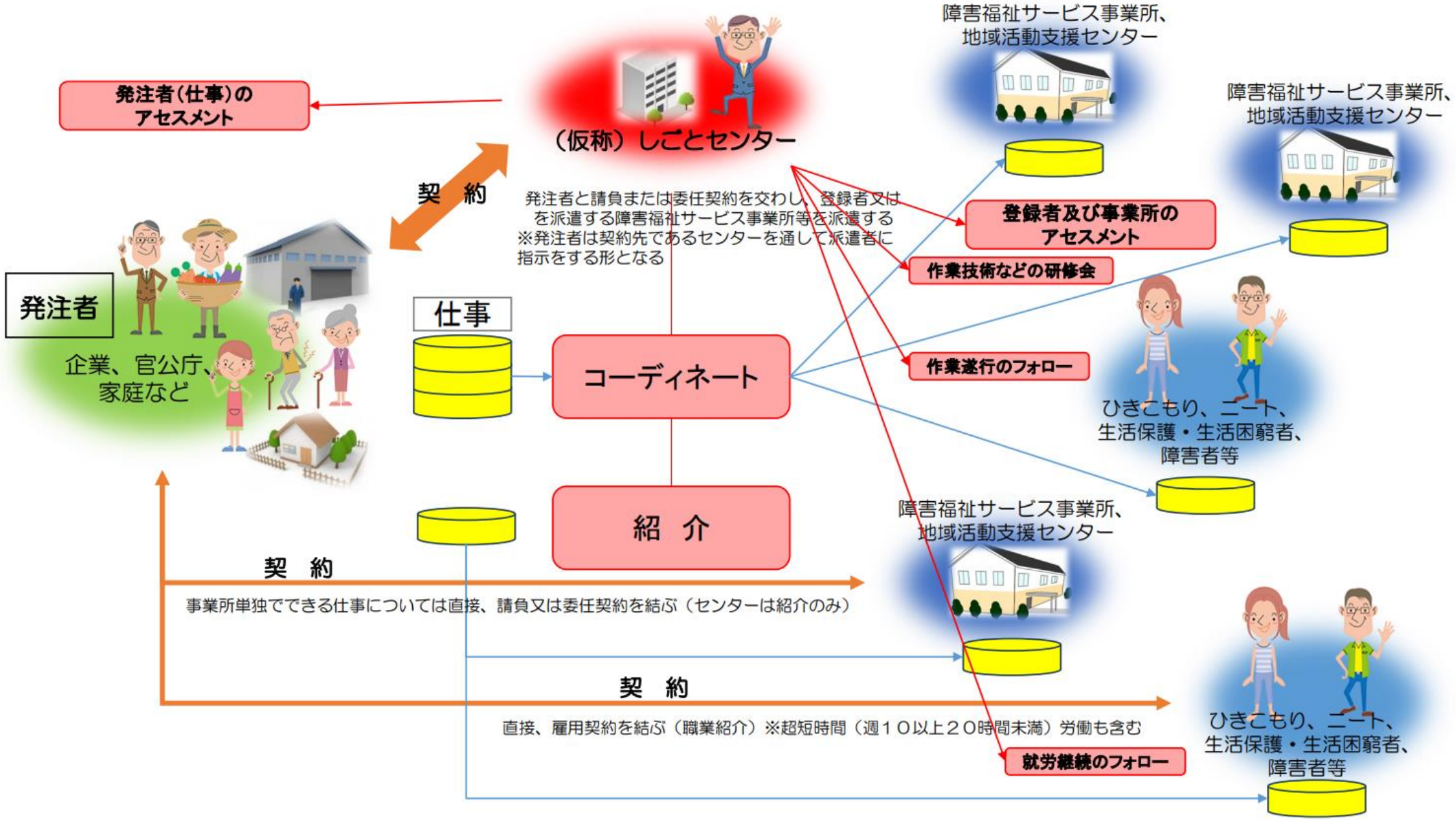
相談・支援

ひきこもり、ニート、生活保護・
生活困窮者、障害者等

請　負	**仕事の完成を目的とする業務** **※出来高を重視～作業量に対する単価を設定**
委　任	**仕事の実施を目的とし、発注者の指揮命令が必要ない業務** **※時間内の存在を重視～駐車場係など**
職業紹介	**発注者と個人の雇用契約に基づく業務**

※　請負、委任については月１０日以内、週２０時間が上限

（仮称）しごとセンターの業務イメージ



しごとセンターが担う役割

就労支援における課題事例

① 就労に向けて障害に関する支援が必要だが本人の障害受容がない

→就労系サービス事業所等の支援機関につながっていない

就ポツ・ハローワーク（障害者関連窓口）の利用に消極的

② コミュニケーションの苦手意識や仕事に関する不安があるまま一般就労をする

→就労中の失敗などから、自信喪失や転職・離職につながる

障害有無に関わらず就労に関する支援を受けていない（受けづらい）人がいる

既存の支援機関で支援できていない層の就労支援をしごとセンターが担う

①、②の人たちに必要な支援は、

超々短時間雇用、短期間雇用、軽作業等、ハローワークの求人にはない多様な「しごと」の経験機会をつくる

→自己理解と就労に対する自信創出につなげ、就労を目指せる人材育成を支援する

ニーズ調査①

センターの利用対象になりえる層（市内）

- 18歳以上65歳未満の市内障害者数

  →身体492人、療育443人、精神298人、精神通院709人　**計1942人**（R6年2月9日時点）

- ハローワークに登録し、求職活動中の障害者数　　**325人**（R5年6月末時点）

- 就労系障害福祉サービス利用者数　　**340人**

  →R5年度の就労移行・就A・就Bの利用者数実績見込み（障害福祉計画案より）

- 就労系障害福祉サービス事業所数　　**22事業所**（R6年1月末時点）

  →就労移行・就A・就Bサービス提供事業所

ニーズ調査②

センターの利用対象になりえる層（市内）

- 市内ひきこもりの人数　669人

  →内閣府調査によるひきこもりの割合をもとにした推計

  ・不登校の児童・生徒が増加しており、さらに増加を予想

  ・障害特性があるが受容されてないなどにより、適切な支援機関につながらないケースも多々あるのではないか

- 社協「よりそい」での仕事に関する相談件数 約55件/年度

  →初回から仕事に関する相談があった件数（H30～R4年度の平均値）

- 生活保護受給者465世帯553人のうち就労支援を行っているケース　約30人（R6年1月末時点）

- 出石特別支援学校進路状況

  卒業生の約64%が一般就労または就労系サービスを卒業後の進路としている（令和元年度～5年度の平均）

しごとセンターの登録者想定

- **就Ｂ事業所に通所中の人**

  将来的に一般就労を目指したいが自信がない。そのための訓練の機会が欲しい。

  →スキルアップしたい分野の仕事を体験

- **ひきこもりの人**

  経済的に仕事をする必要があるがなかなか踏み出せない。

  障害受容がないため、就ポツやハローワークの障害部門につながらない。

  若者（サポステ登録者）等、コミュニケーションが苦手で離転職を繰り返す。（ひきこもり予備軍）

  →まずは在宅でできる作業からスタート

  　自身の得手不得手を知り、適切な支援につながる

- **障害福祉サービス事業所**

  利用者の就労訓練になる作業を探したい。工賃向上につながる作業が欲しい。

  →作業メニューの拡大、利用者の工賃アップ等できるようセンターが仕事をコーディネート

- **企業、地域（個人）、官公庁**

  働き手が不足している企業もある。今後も地域の高齢化が進み、困りごとが増える可能性がある。

  →人手不足の軽減、業務分担による効率化など

しごとセンターの利用想定

①障害福祉サービス利用者	就B事業所利用中	センターの「しごと」コーディネートで色々な作業を経験	就労に対する自信がつく	短時間雇用や自分に合う業務を経験してみる	障害者雇用へステップアップ
②無職のひきこもり（若者）	ひきこもり	センターに登録して在宅ワークを始めてみる	地域（近所）の「しごと」も経験	自宅の外での活動や仕事をすることに意欲が出る	就労系サービスの申請や就労に向けた相談機関へ行く
③授産作業を増やしたい就労系サービス事業所	就B事業所の利用者に合う作業を受注したい	センターに登録して「しごと」のコーディネートを受ける	利用者の作業メニューの拡大と工賃向上 さらに就労経験も増える	就労に向けた利用者のトレーニングに繋がる	就A、就労移行、障害者雇用などへのステップアップ
④無職の若者	現在無職 生活が苦しいため仕事をしなければならない	ハローワークの求人はハードルが高い	センターに登録し、地域の作業などから初めてみる	収入ができ、作業の経験を通して就労の自信がわく	就労に関する支援を通して、就労を目指すようになる

今後の活動

① 市内の就労関連の支援機関としごとセンターの業務内容を整理

② 当事者ニーズや現状についての追加調査

③ しごとセンターの機能、運営方法など、しごとセンターの設立案を協議

④ 市への提言書を作成し、提言